



3.20反対集会・行進 地元新聞等に掲載されました



大学の状況がようやく外へ

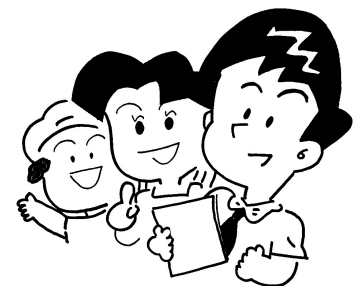
20日(月)、盛會に終わった「3.20 反対集会・行進」なんだけど、この集會に熊本日日新聞と赤旗が取材に来ました。まあ、取材に来たからといって、紙面に載るかどうかは分からなかったんだけど、翌日(21日)の熊日と22日の赤旗にまあまあ大きく載ってました。

今まで「フォーラムを開催した」とか、「何処の大学と提携した」など、研究教育に対して良い面は表に出ていたんだけど、内部の問題など、包まれたところは出ていかないのが現状でした。そのせいか、世間では「熊本大学職員の給与は公務員同等にもらっている」と勘違いされている人がほとんどのようです。実際は国家公務員の84%位なのです。人事院勧告をちゃんと見てみてください。勧告で出した平均よりはるかに熊本大学職員の平均は低いのです。しかし使用者は「世間は大学職員の給与が高いと思っている」と決め付け、「国民の理解を得るためには、熊本大学だけ給与を上げたりはできない」と人勸準拠論を言い出し、教職員の給与を下げる。これじゃあ、民間格差是正なんて形だけで、大学職員の場合、差が開くだけだよ。また、この差を正当化するために使用者は「従業員10名(パート含む)以上の企業と比べると、はるかに熊大職員の給与は高い」なんてこと言い出すし、ホント黙ってたら一生大学教職員の給与なんていい方向には進んでいかないよ。今回のように外へ向けてアピールをしていけば、いつか必ず報われる日が来ると思うよ。ホント。



熊本日日新聞(21日)の記事より

よく「組合活動でみんなのためにやっていて大変ね」と言われる方がいます。他の組合員はどう思っているかは知らないけど、オイラは自分の権利(生活等)を守るためにやっているのよね。ただやっていることが、たまたま全体の共通した問題だったりするからそう思われるんだけどね。また、今回の行動が使用者の方の心に響いたかどうかはわからないね。なんせ事務的な処理しかしない、なんか冷めているような人たちだから…。でも何もしないままでは始まらない。だから、このような活動の積み重ねが大事なんだよね。スグに結果を求めるような今の世の中じゃ、忘れられていることなのかもしれないけど…。



熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.31 2006/03/23